

岡豊城跡

第三次発掘調査

岡豊城跡の第三次発掘調査が五月二十八日から行われており、七月十八日にその成果を発表する現地説明会が開かれました。

この調査は、県立歴史民族資料館の建設予定地である岡豊山の岡豊城跡を発掘調査し、中世城跡としての姿を解明、保存整備計画を検討するための資料を得るために昭和六十年代から県教育委員会が行っているものです。

今回調査されたのは、詰や三ノ段など三百平方メートル、土師質土器

や茶臼、硯、金銅製正観音の兜の前立など約三千点が出土しました。この兜の前立は、全国的にも出土例のない貴重なものです。

調査の結果は次のとおりです。
○詰においては、南部と北部に建物があり、中央部に広場がある。また、東端部に出入口に関連すると思われる施設が存在した。
○堀切は、当初は北から南に掘り抜けており、詰と三ノ段を隔てていたが、後に北の部分が埋められ



詰から出土した兜の前立

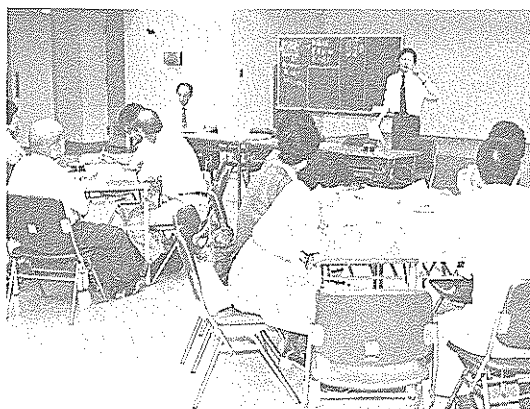
て通路として使用され、また一部を掘り下げて井戸が作られた。堀切の南部は深く掘り込まれており、十分な防御機能を備えていた。

○三ノ段は多量の盛土によって造られており、岡豊城の整備、拡張期に形作られたと思われる。多くの岩が散乱し、遺物も多いことから、詰の斜面に石垣があった可能性も考えられる。石垣は中世城址では報告例がなく、注目される。

今回までの調査で、段階を追って整備、拡張されていた様子などが次第に明らかになってきました。県教育委員会では、岡豊城の全体像解明に向けて来年度も発掘調査する予定です。
※堀切Ⅱ尾根の部分を掘り切り離す堀。

岡豊城跡は、長宗我部氏の居城として著名な中世城館です。山頂部を中心とした主郭部と、その南部及び南部の支郭部からなっています。主郭部には詰を取り囲む

“明るい社会” を目指し 展示即売やパネル展



少年非行をテーマに研究会も開かれた

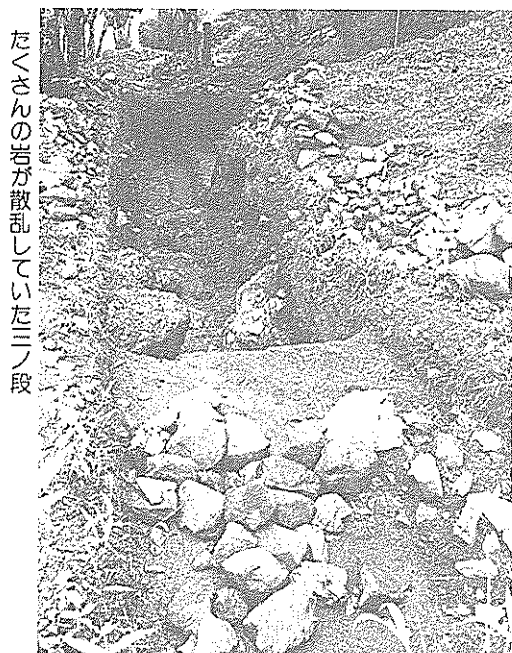
「社会を明るくする運動」月間中の七月十七日、市役所で「防ごう非行、助けよう立ち直り」をスローガンにパネル展や高知刑務所作業製品の展示即売などが行われました。

これは市実務委員会（小笠原滋郎委員長）が保護司会や更生保護婦人会、南国警察署など関係団体の協力で実施したものです。

まず午前中は、一階ロビーで交ように、二ノ段、三ノ段、四ノ段などの曲輪があり、また土塁、堀切、堅堀（斜面に対して縦に掘られた堀）などの遺構も残っていることから、堅固な防御施設が存在していたことがわかります。

通事故や覚せい剤のパネル展、シナリーなどの風用防止啓発ビデオの上映、展示即売などが行われました。展示即売製品には、本棚やタンス、げた箱、靴、さんごの加工品などがあり、値段も安く上々の売れ行きでした。また四階大会議室では、青少年や婦人の悩みごと相談所も開設されました。

午後からは、少年非行をテーマにした公開ケースの研究会が開かれ、参加者は五つのグループに分かれて熱心に問題点を話し合いました。そして、最後に「犯罪の絶滅とともに犯罪者の立ち直りを願う、明るい社会をつくる」との決議文を全員で朗読、採択するなど、一日中運動を盛り上げました。



たくさん岩が散乱していた三ノ段